

『地域経済経営ネットワーク研究センター』設立シンポジウム

東日本大震災での経験から、地域経済やそれを構成する個々の企業、住民にとって、地域内の経済的社会的ネットワークと地域外とのネットワークの両方が大切であることを教えられました。ネットワークと言っても、電力、交通網といった物理的なネットワーク以外にも、モノや情報やお金が複雑に繋がっている経済経営のネットワーク、家族、親戚、地域社会あるいは地域・国を超えた友人や知人のネットワークなど様々な形態が存在します。

今回の大震災や近年の世界的金融危機などによって、少数のノード(交点、結節点)に意思決定機能が集中する巨大な集権的ネットワークは、何が起きているか監視することが難しく、またリスクに対してぜい弱であることが明らかになりました。これに対して監視が比較的容易でリスクにも強い自律分散型ネットワークが、情報通信技術の発達などで技術的にも可能になってきています。例えば、元々「現場」というノードが実力を持っていて、震災からの復旧も進んでいる製造業ネットワーク(サプライチェーン)や、電力におけるスマートグリッド技術の進歩はその好例です。

こうした自律分散型ネットワークへの移行は、東京一極集中型の日本の集権的ネットワークの下でもがいていた地域にとって、自立するチャンスでもあります。しかしそれには、地域や企業、あるいは住民自身が情報収集・意思決定能力を向上させ強いノードにならなければなりません。

本研究センターがそうした地域の自立能力向上に役立てるよう、この設立シンポジウムでは、それぞれのご専門分野で自律分散型ネットワークの形成に尽力されている講師の方々に来ていただき、叱咤激励をしていただければと思っています。

シンポジウムテーマ

『地域』を鍛える!—自律分散ネットワークへ

日時

2011年10月27日 木

午後3時～5時50分

参加自由

場所

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟
W103教室

講師と演題

一般社団法人 スマートプロジェクト 代表(元内閣審議官、「エコポイント」提唱者)

加藤 敏春 「スマート国民総発電所:ネットワーク化するエネルギー」

東京大学大学院経済学研究科 教授(東京大学ものづくり経営研究センター長)

藤本 隆宏 「産業を超えた地域のものづくり知識共有」

株式会社 ノーザンクロス 代表取締役(NPO日本都市計画家協会 理事)

山重 明 「地域マネジメントの実践と課題」

パネルディスカッション(司会:地域経済経営ネットワーク研究センター長 町野 和夫)

主催:北海道大学大学院経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター

お問い合わせ

北海道大学大学院経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター事務局
TEL. & FAX 011-706-4066 Email:sacade@econ.hokudai.ac.jp